

(6) 防災対策について

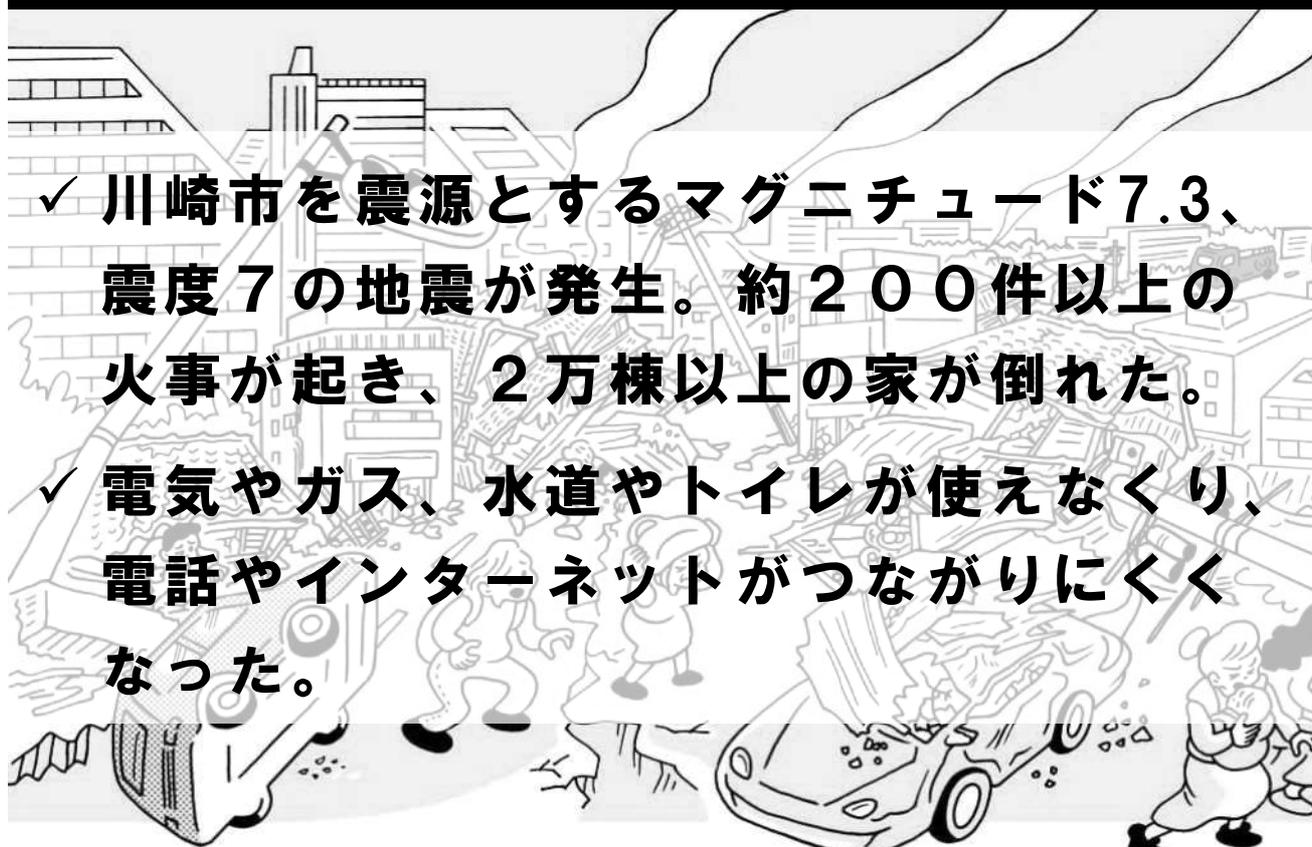
突然の災害に備える

— 大地震が起きたまちをイメージしてみよう —

川崎市危機管理室

大地震が起きた！

- ✓ 川崎市を震源とするマグニチュード7.3、震度7の地震が発生。約200件以上の火事が起き、2万棟以上の家が倒れた。
- ✓ 電気やガス、水道やトイレが使えなくなり、電話やインターネットがつながりにくくなった。



川崎市の被害想定を知る

	全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	焼失棟数 (棟)
川崎区	6, 543	10, 964	3, 987
幸区	4, 649	6, 314	2, 394
中原区	3, 748	7, 974	2, 858
高津区	3, 083	7, 468	2, 028
宮前区	1, 811	6, 256	1, 663
多摩区	1, 395	5, 785	1, 783
麻生区	1, 098	5, 037	1, 683

川崎市の被害想定を知る

	死者 (人)	負傷者 (人)	避難者数 (人)
川崎区	235	3, 980	67, 689
幸区	156	2, 384	56, 363
中原区	154	2, 928	65, 467
高津区	108	2, 300	58, 457
宮前区	64	1, 618	50, 719
多摩区	58	1, 463	33, 575
麻生区	43	1, 148	28, 806

大地震発生直後の川崎市

- ✓ 消防署は災害発生後すぐに出動する。
- ✓ 消防のヘリコプターが、上空からでしかわからない被害を調べ、市役所に知らせる。
- ✓ 川崎市の職員や先生が市役所や学校に集まり、市役所に災害対策本部が出来る。
- ✓ 災害対策本部から、あらゆる方法を使って市民の皆様に川崎市の情報を伝える。

大地震発生から数時間

- ✓ 断続的に大きな余震が起き、そのたびに新たな被害が発生している。
- ✓ 大火災が発生している。
- ✓ 多くの避難者が広域避難場所（大きな公園）や避難所（学校など）に集まっている。
- ✓ ケガ人が病院に運ばれている。

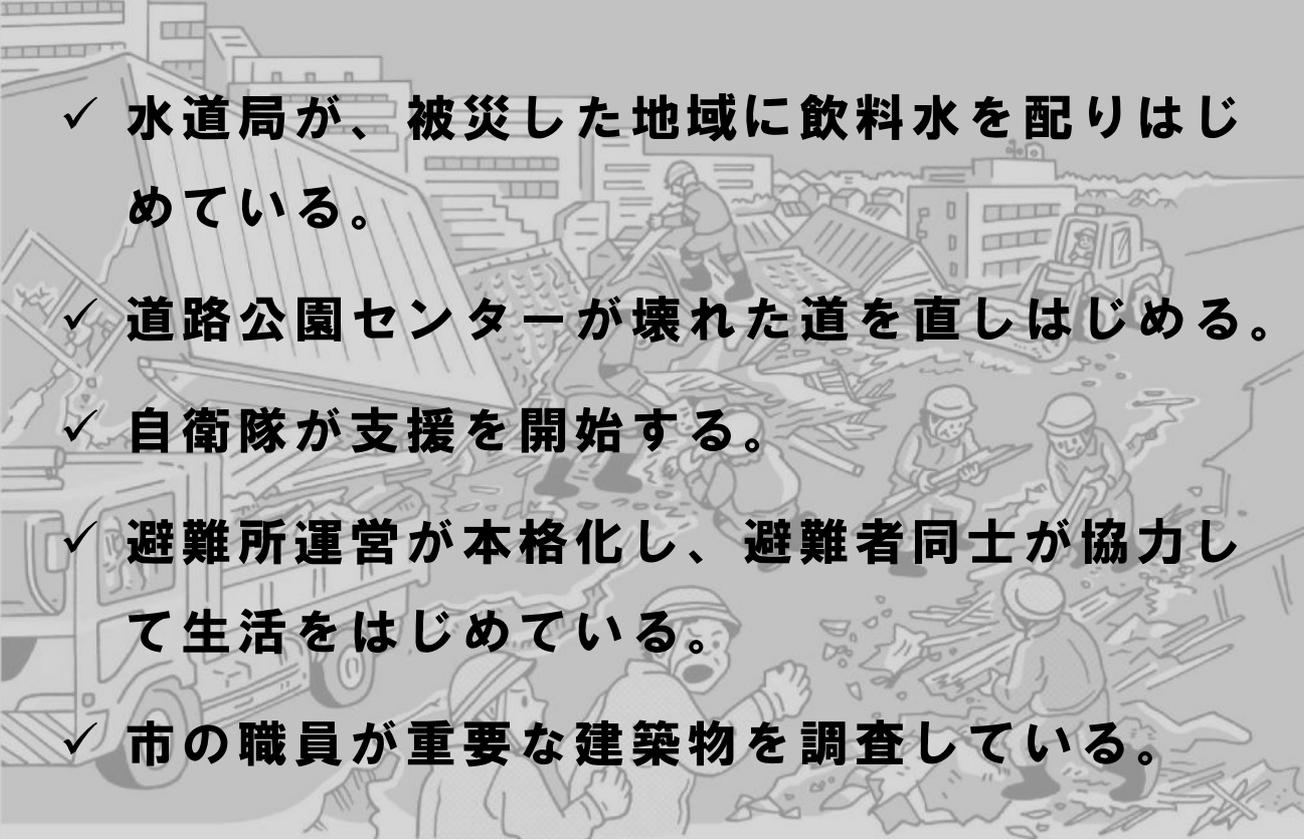
地震から数時間後の川崎市

- ✓ 消防署は消火を行いながら、機動隊と共に倒壊した建物から人を救い出している。
- ✓ 道路公園センターが大きな道をパトロールする。
- ✓ 大きな病院では、重傷の人から先に治療している。
- ✓ 避難所に市職員が駆け付け、避難者や自主防災組織、学校の先生などと共に避難所の運営を始める。

大地震から1日

- ✓ 次の日になっても、大きな余震が起きるなど、まだまだ危険な状況にある。
- ✓ 家屋を失い、長期の避難が必要となる市民が10万人以上もいる。
- ✓ 一方、家が壊れていない人は、避難した場所から家に戻りはじめている。

地震から1日後の川崎市

- 
- An illustration showing the aftermath of an earthquake in Kawasaki City. In the background, there are damaged buildings and debris. In the foreground, several workers wearing hard hats are engaged in reconstruction work. One worker is using a shovel to clear debris, while others are working on the foundations of new structures. A large truck is parked on the left, and a smaller vehicle is on the right. The scene is filled with a sense of active recovery and rebuilding.
- ✓ 水道局が、被災した地域に飲料水を配りはじめている。
 - ✓ 道路公園センターが壊れた道を直しはじめる。
 - ✓ 自衛隊が支援を開始する。
 - ✓ 避難所運営が本格化し、避難者同士が協力して生活をはじめている。
 - ✓ 市の職員が重要な建築物を調査している。

川崎市の避難所の整備

避難所機能の分散

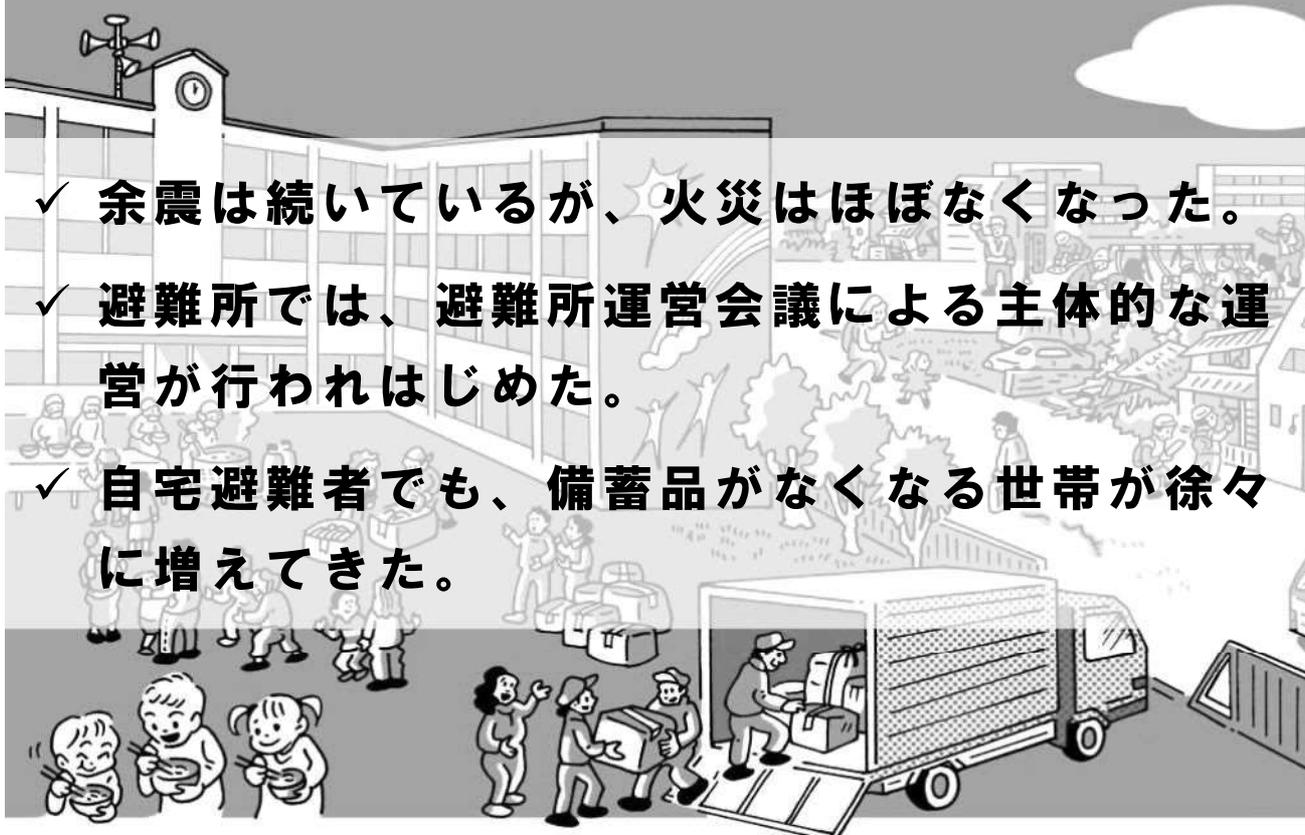
川崎市内の小中学校を中心に175箇所を指定避難所とし、そのすべてに備蓄倉庫・物資を置くことで、災害時に市民の方に迅速に備蓄物資をお渡しできるような体制を整えている。

避難所運営会議の設置

災害時に避難所の円滑な運営を行うことを目的に、各避難所（学校）ごとに、自主防災組織・学校施設関係者・PTA・市職員などを主な構成員とする会議を設置し、平常時から避難所運営の役割を決めておくなどの活動を行っている。

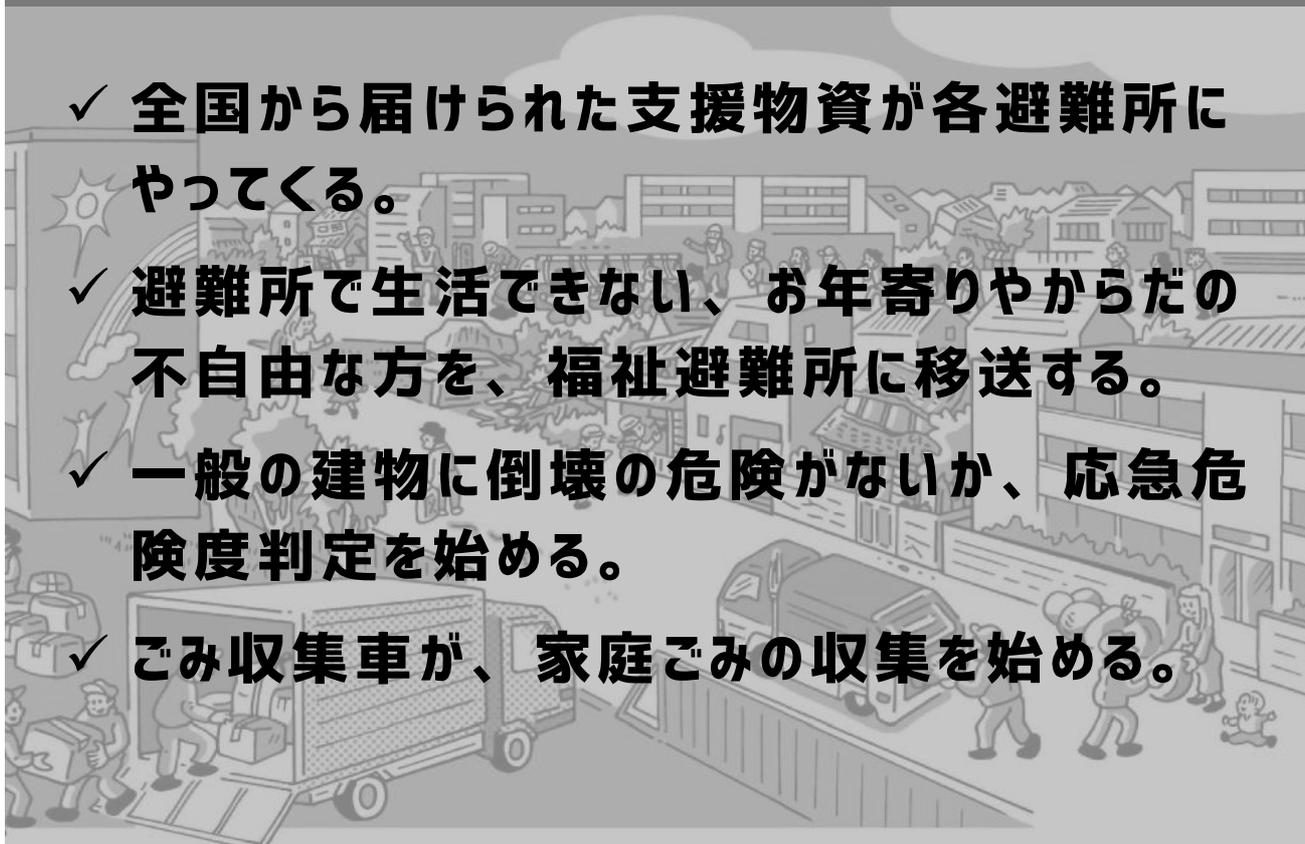
大地震から3,4日

- ✓ 余震は続いているが、火災はほぼなくなった。
- ✓ 避難所では、避難所運営会議による主体的な運営が行われはじめた。
- ✓ 自宅避難者でも、備蓄品がなくなる世帯が徐々に増えてきた。



地震から3,4日後の川崎市

- ✓ 全国から届けられた支援物資が各避難所にやってくる。
- ✓ 避難所で生活できない、お年寄りやからだの不自由な方を、福祉避難所に移送する。
- ✓ 一般の建物に倒壊の危険がないが、応急危険度判定を始める。
- ✓ ごみ収集車が、家庭ごみの収集を始める。



公的備蓄の数量はどのくらい？

家屋の全壊や焼失のため、避難所生活を余儀なくされ、かつ物資の確保が困難になると予測される人数を基に、公的備蓄の数量を算出しています。



区	想定避難者数	区	想定避難者数
川崎区	31,371人	宮前区	12,278人
幸区	20,822人	多摩区	9,574人
中原区	34,511人	麻生区	7,502人
高津区	21,720人		

全市で13万7778人と算出

大地震から1－2週間

- ✓ ボランティアが被災地に集まり、避難所などで支援を行っている。
- ✓ 電気や、ガス、水道などライフラインの復旧が進む。
- ✓ 大きな道路の修理が終わる。



地震発生 1 週間後の川崎市

- ✓ ボランティアセンターを通じ、災害ボランティアによる被災者支援が本格的に始まる。
- ✓ 災害ガレキの処理を検討している。

地震発生 2 週間後の川崎市

- ✓ 川崎市の復興方針を作り、公表する。
- ✓ 仮設住宅の建設や、避難者へ市営住宅の空室の提供を始める。
- ✓ 罹災証明の発行のための調査を始める。

17

そして復興へ・・・

振り返ってください

**あなたの施設では、
災害への備えが
十分にできていますか？**

事前の準備が一番大事！

いつ災害が起きても困らないように

**災害時の対応計画（BCP）
を作成しましょう**

**BCP（業務継続計画）や
災害時のマニュアルを作成
訓練を通じて実効性を確認**

あらかじめ決めておくべきこと（例）

災害時の連絡手段

要介護者、支援者、職員など関係者の安否確認

避難方法や避難の判断基準

避難場所やルート、避難の判断基準を決めておく

役割分担や物品の用意

優先業務の順位付けや役割分担

必要な物品の準備など

21

災害時の連絡手段の一つ 《171》

171に電話

被災地のひと



メッセージを話したあと、自分の家や携帯の電話番号を入力する。

メッセージ

こっちはみんな
無事ですよ。
心配しないでね。

171に電話

遠くのひと



被災地の人の電話番号を入れ、メッセージを聞く。

災害時は情報が命 《適切な情報入手》

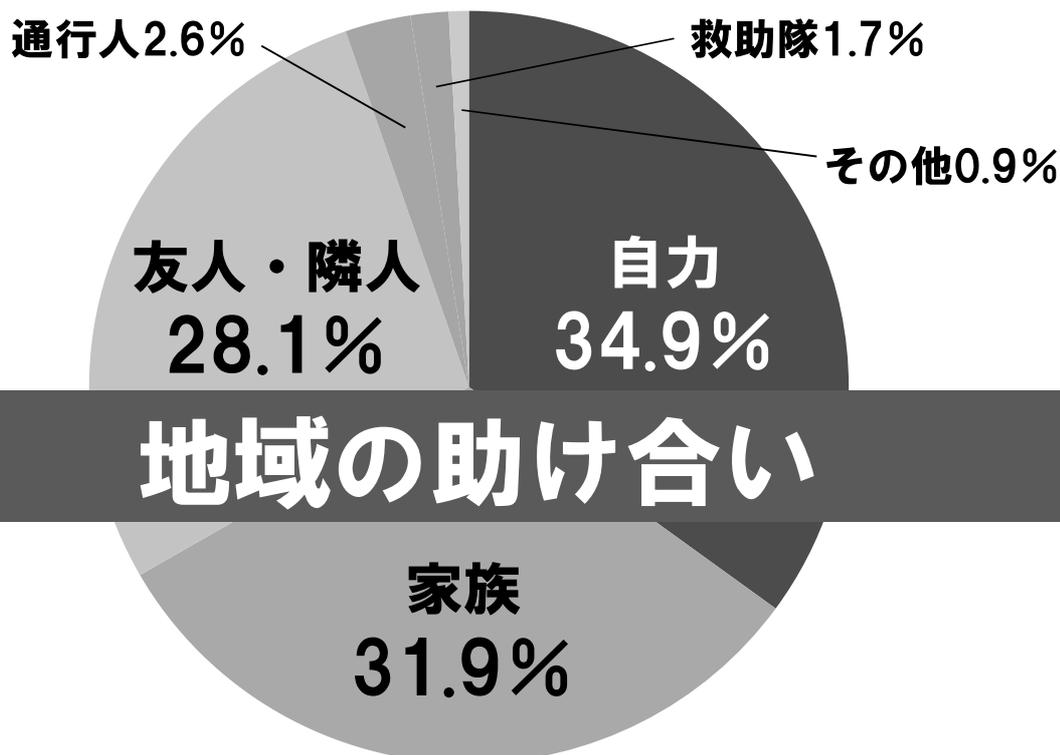


何よりも地域の助け合い

災害時にすぐ近くに
いる人が一番の支援者

まずは、お互い無理なく知り合う
ことから始めませんか。

大地震のとき誰が助けてくれたのか



地域の助け合い

(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より

災害時に一番大切なことは、
近くにいる人が力を合わせて
復興に向かうということ。

そのために、困った時に助け
合えるまちを日ごろから作っ
ていこう。